

欧州景気概況(2022年12月)



2022年12月2日

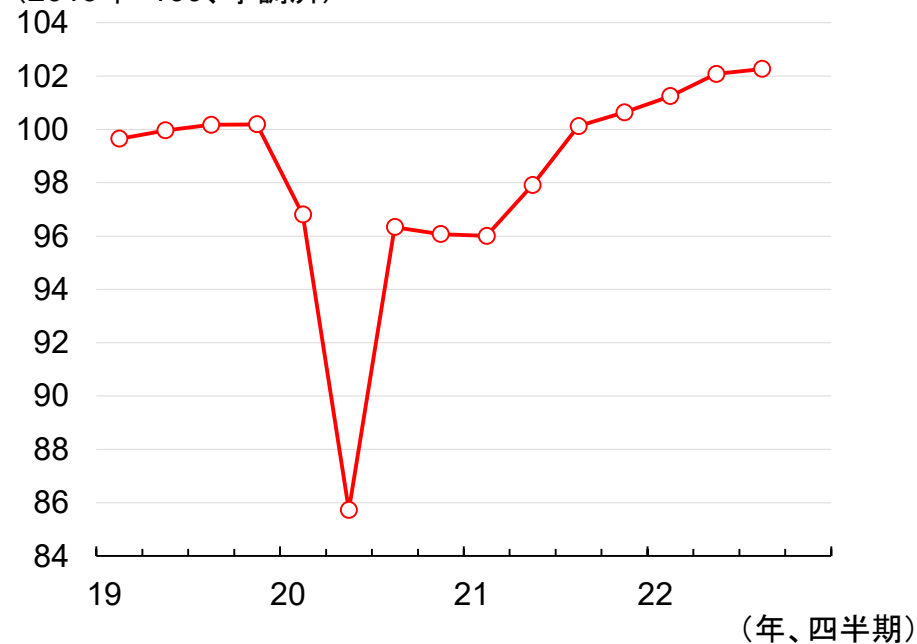
調査部 副主任研究員 土田陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は足踏みしている

ユーロ圏の7-9月期の実質GDP(速報値)は前期比+0.2%と、4-6月(同+0.8%)から増勢が失速した。景気の方角を示す景況感指数は、最新11月が93.7と8ヶ月ぶりに上昇し、底入れしつつある。

実質GDP

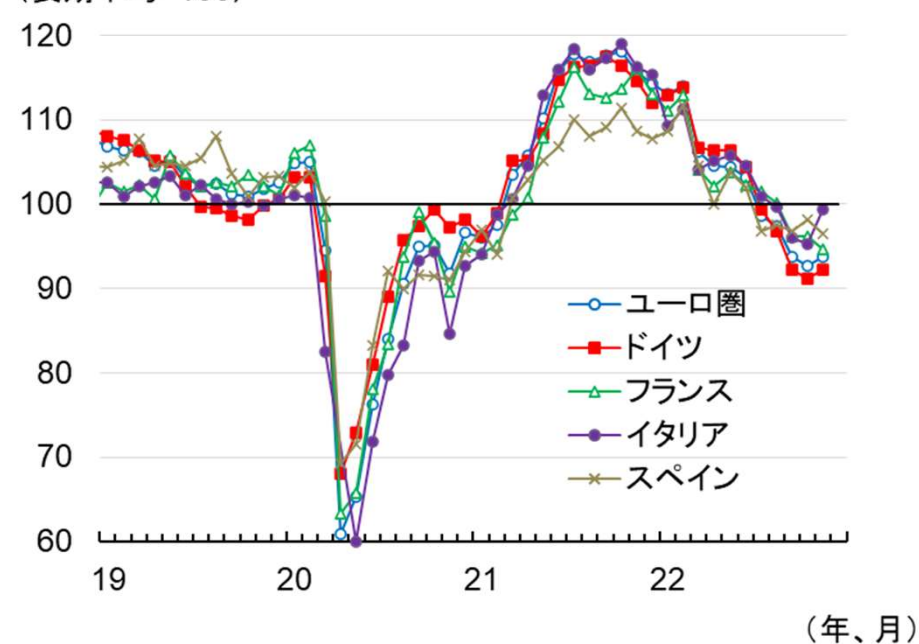
(2019年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)



(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は増加

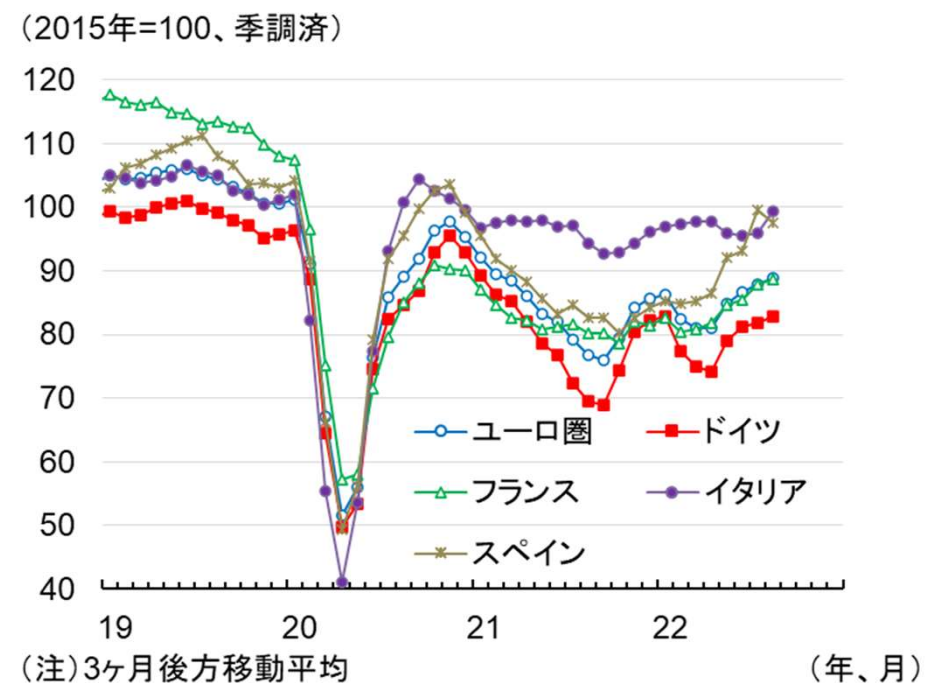
ユーロ圏の9月の鉱工業生産は前月比+0.9%と8月(同+2.0%)から増勢が鈍化したが、均した動きは増加基調。資本財と消費財(非耐久財)の増加が続き、生産全体をけん引した。主要国の自動車生産台数も緩やかに持ち直している。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

自動車生産台数(鉱工業生産ベース)



(注) 3ヶ月後方移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は底入れ

ユーロ圏の9月の小売数量は前月比+0.4%と3ヶ月ぶりに増加し、均した動きも底入れした。翌10月の新車販売台数は前月比+1.7%の年率892万台と堅調、均した動きも上向き。半導体などの供給制約の緩和が新車登録台数の増加につながった模様。

小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

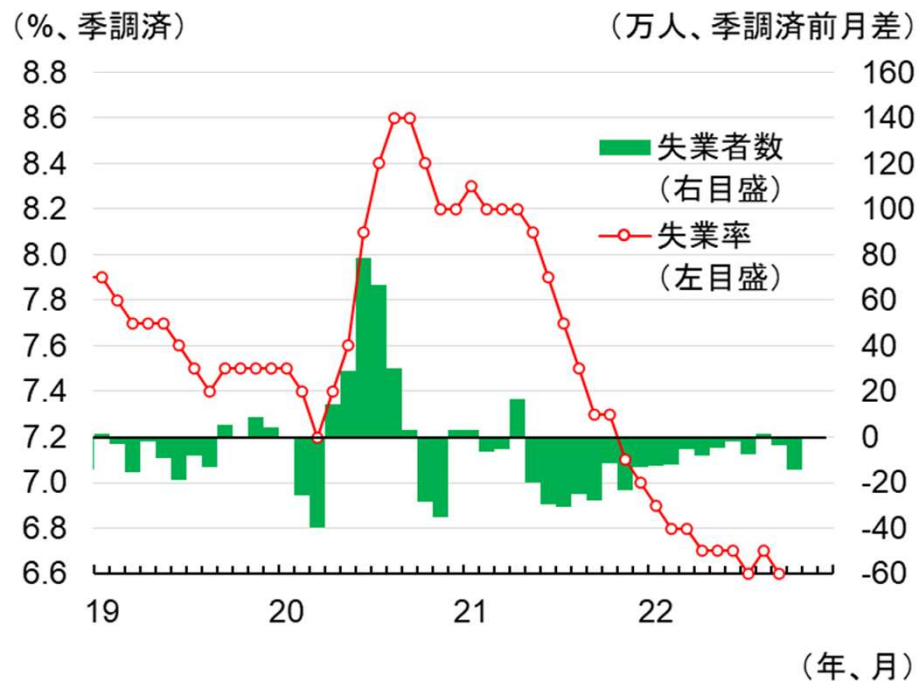


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行(ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善

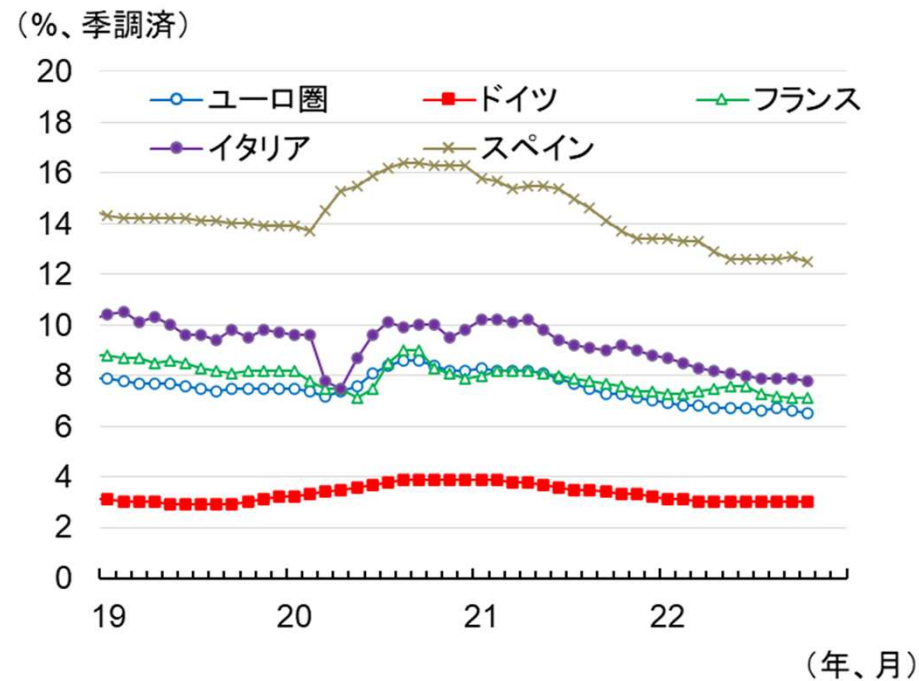
ユーロ圏の10月の雇用統計では、失業率が6.5%と再び低下、失業者数も前月比14.2万人減と、雇用の改善が続いていることが確認された。主要国別に失業率をみると、フランスやイタリア、スペインで失業率の低下が続く一方、ドイツは横ばいとなっている。

失業率と失業者数



(出所) ユーロスタット

主要国別失業率

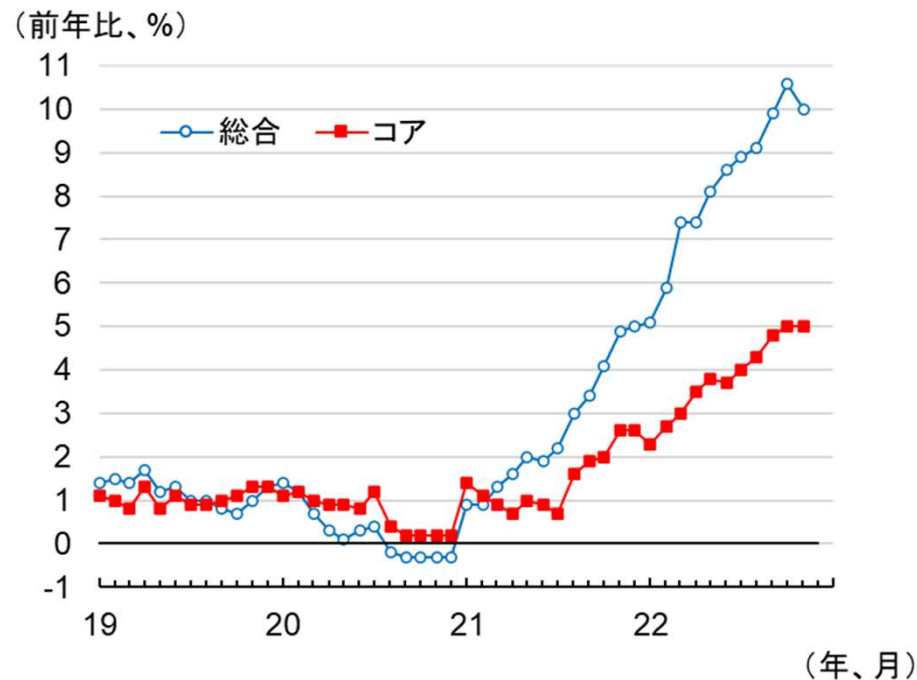


(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ 物価は高インフレが続く

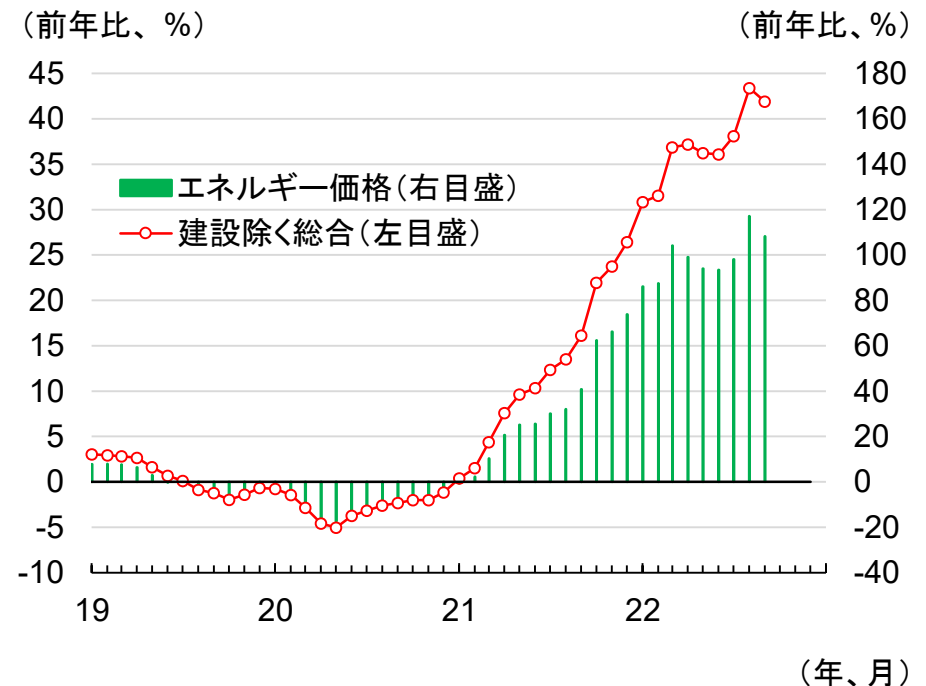
ユーロ圏の11月の消費者物価(速報値)は前年比+10.0%と、依然として高い伸びが続く。先行指標である生産者物価(建設除く総合)は9月時点で前年比+44.6%と3ヶ月ぶりに上昇が減速したが、伸び率は依然として高い。うちエネルギー価格も同+108.2%と上昇幅が3ヶ月ぶりに縮小した。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価

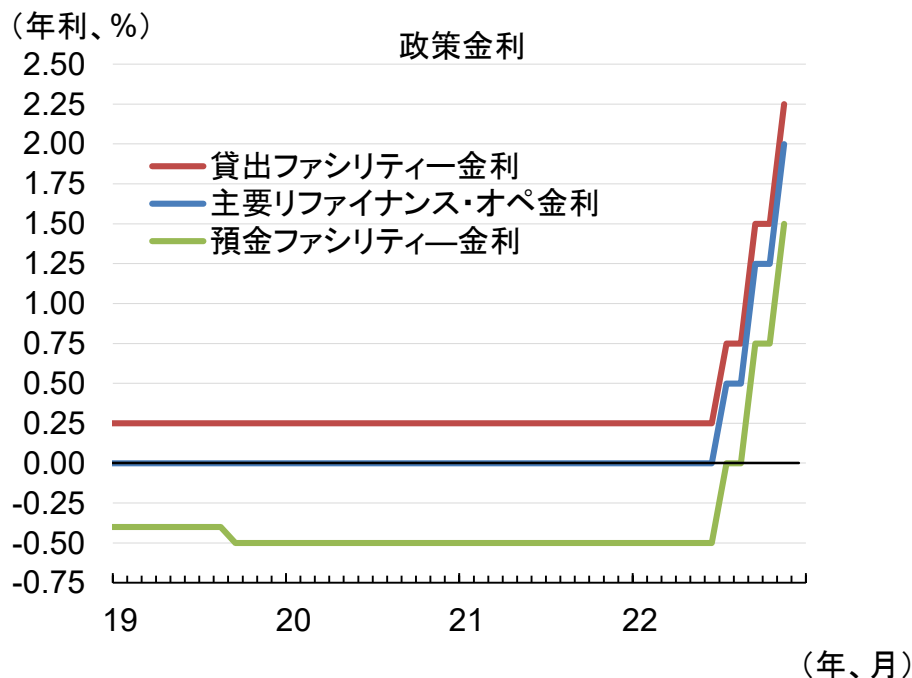


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは12月理事会で追加利上げの見込み

欧州中央銀行(ECB)は12月15日に定例の政策理事会を開催する予定。12月理事会では、3種類ある政策金利をそれぞれ0.5%以上、引き上げる見込み。またECBはこの理事会で、資産購入プログラム(APP)の再投資終了に関する原則を公表する予定。2023年最初の理事会は2月2日を予定。

ECBの政策金利



(出所) 欧州中央銀行(ECB)

10月理事会での決定内容の概要

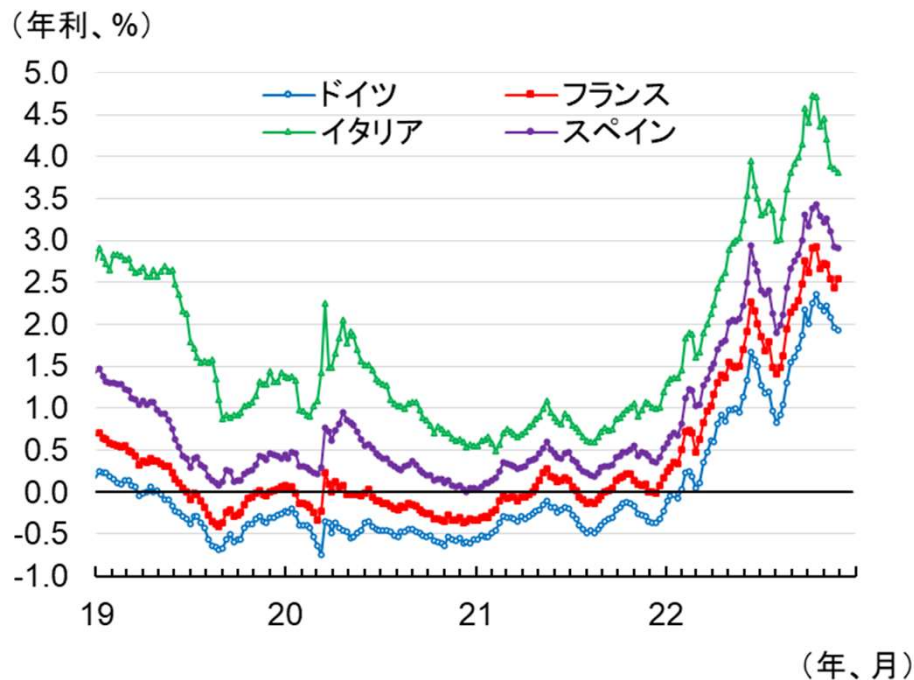
主な決定事項	内容
政策金利	■各政策金利を0.75%ずつ引き上げ ・貸出ファシリティー金利 1.50%→2.25% ・主要リファイナンス・オペ金利 1.25%→2.00% ・預金ファシリティー金利 0.75%→1.50%
資産購入の再投資政策	■資産購入プログラム(APP) ・再投資は金融環境の安定が確認された後に終了 ・再投資終了に関する原則を2022年12月理事会で公表 ■パンデミック緊急購入プログラム(PEPP) ・再投資は2024年末で終了 ・各国中銀の出資比率に応じた資産購入などを適用せず、柔軟な購入を行う
市場分断防止策(TPI)	■TPIの適用条件 ・EUが定める財政ルールへの順守 ・健全なマクロ経済運営(過剰な経常赤字の是正など) ■TPIの具体的な手段 ・流通市場での国債購入、金額は無制限 ・購入対象資産は国債が中心、社債も視野、満期1~10年 ・状況が改善すれば終了 ・経済の基礎的条件に基づく金利上昇には適用せず

(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は低下、株価は上昇

11月のユーロ圏主要国の長期金利は低下した。ECBが追加利上げに努める一方、米国発の長期金利低下の波がユーロ圏主要国の金利を押し下げた。他方、11月のユーロ圏の株価は上昇した。米国の早期利下げ期待を背景に、資源株を中心に幅広い銘柄が買い戻された。

長期金利



(出所) ECB

株価 (Eurostoxx50)



(出所) STOXX

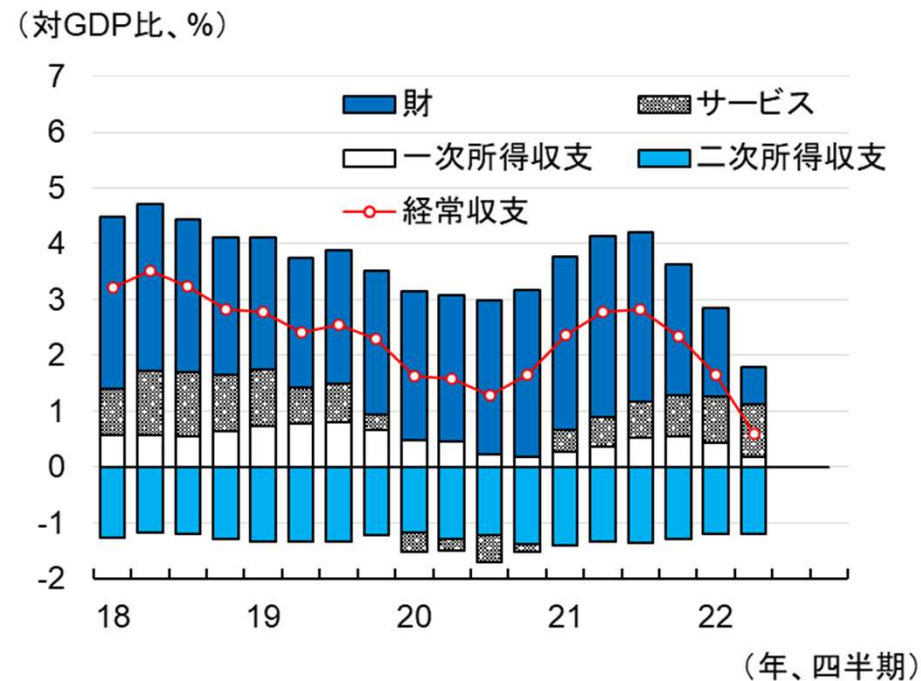
ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドルで上昇、対円で下落

11月のユーロ相場は対ドルで上昇、対円で下落。対ドルでは、米国の追加利上げテンポが鈍化するとの見方からユーロ高となった。対円では、これまでの円安の反動から円が買い戻され、ユーロ安となった。経常収支は財貿易収支の黒字幅が徐々に縮小しており、実需面からのユーロ買い圧力は弱まっている。

ユーロ相場



国際収支

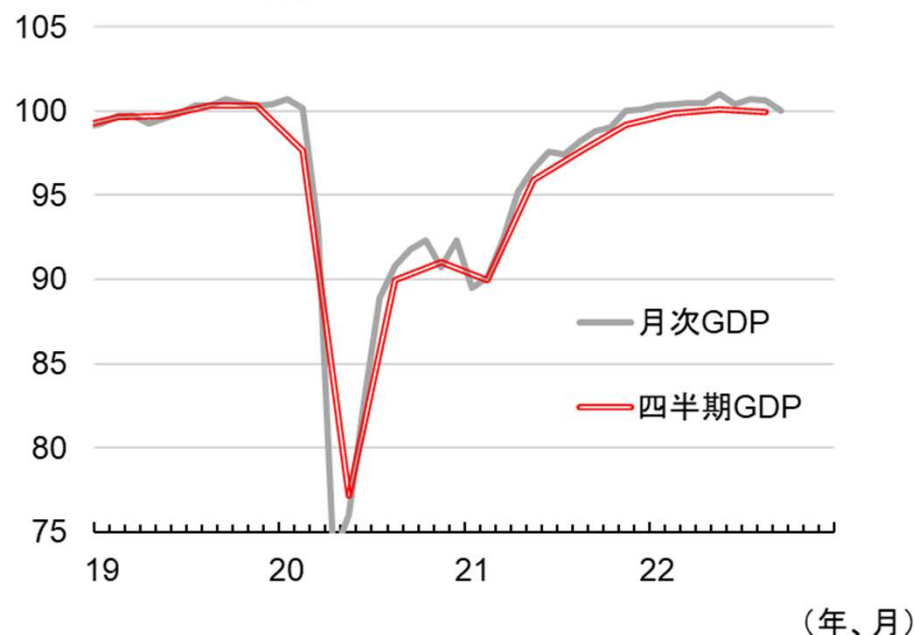


英国景気概況① 景気は足踏みしている

英国の7-9月期の実質GDPは前期比▲0.2%と、2021年第1四半期以来の減少に転じた。主要な需要項目の動きを確認すると、個人消費と設備投資が減少して景気の重荷となった。反面で、輸出が堅調に増加して景気を下支えた。一方、9月の月次実質GDPは前月比▲0.6%と、8月(同▲0.1%)から減勢が加速した。

実質GDP

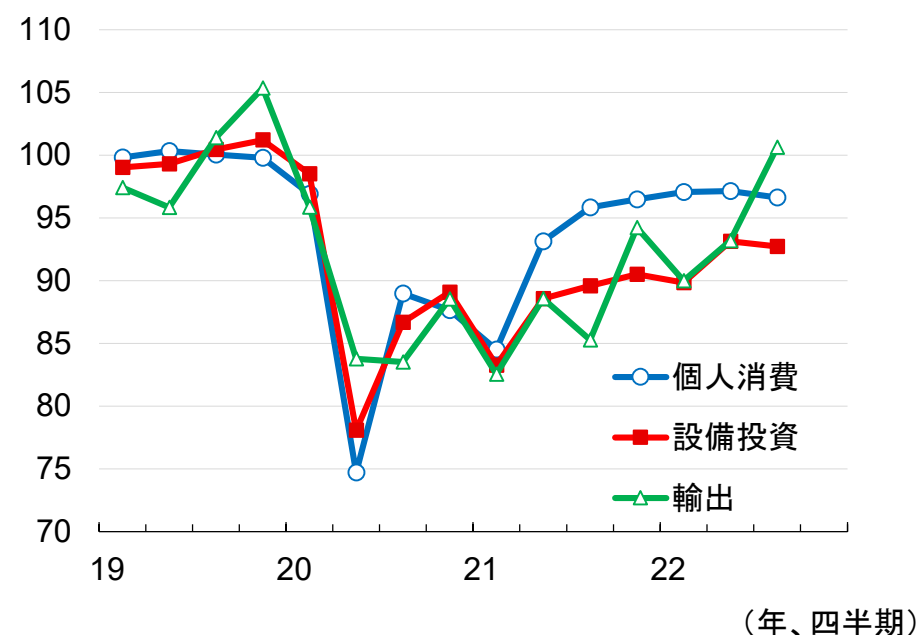
(2019年=100、季調済)



(出所) 英国立統計局(ONS)

主要な需要項目

(2019年=100、季調済)

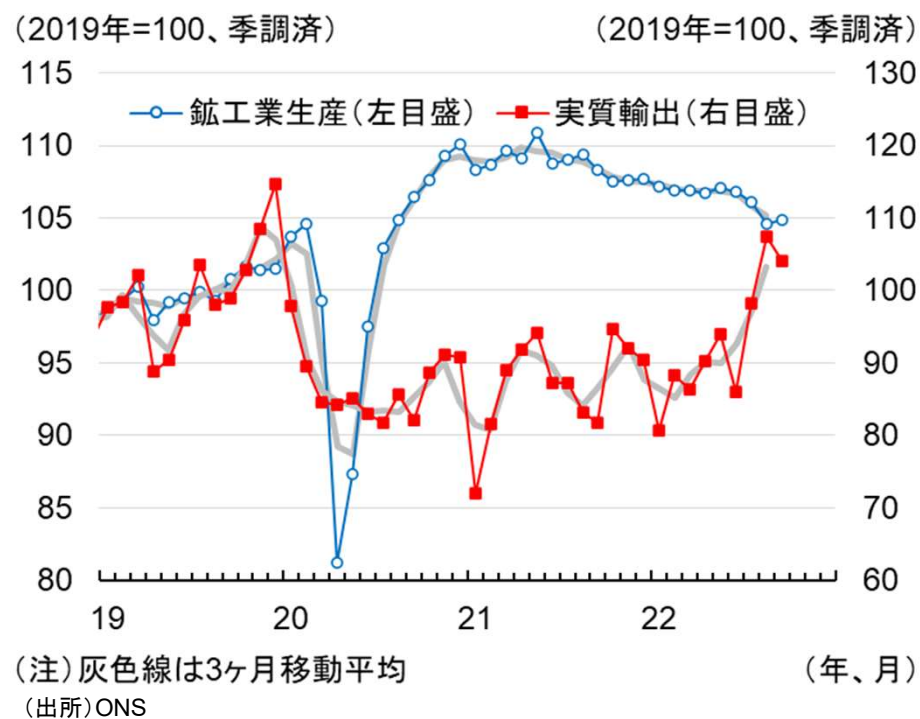


(出所) ONS

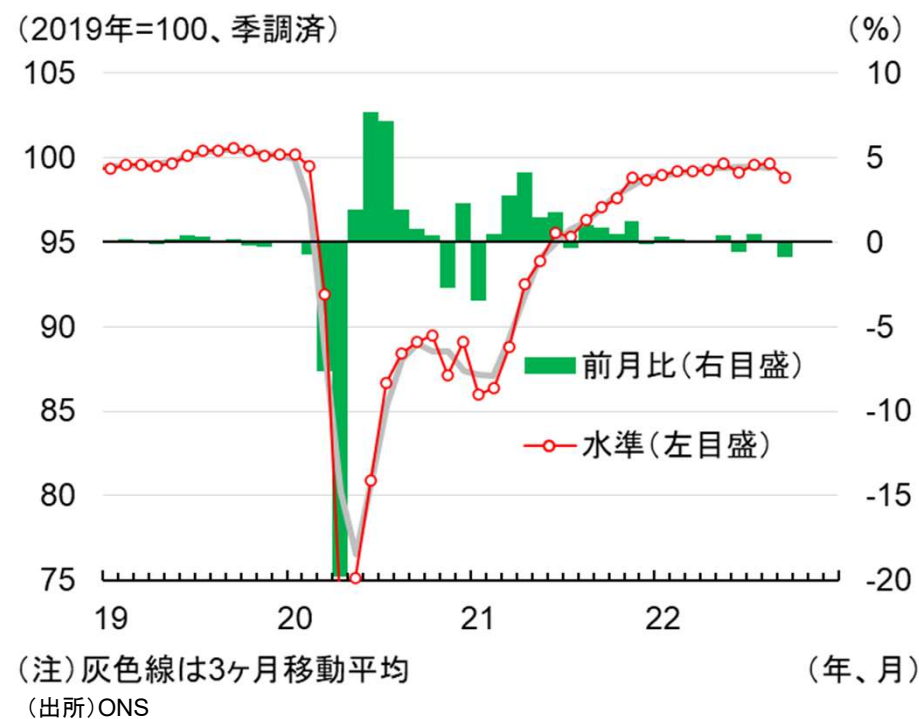
英国景気概況② 生産は悪化

英国の9月の鉱工業生産は前月比+0.3%と4ヶ月ぶりに増加したが、均した動きは下向き。一方で、同月の実質輸出は同▲3.2%と減少に転じたが、均した動きは上向き。また同月のサービス生産は前月比▲0.9%と減少に転じ、均した動きは横ばい。

生産と輸出

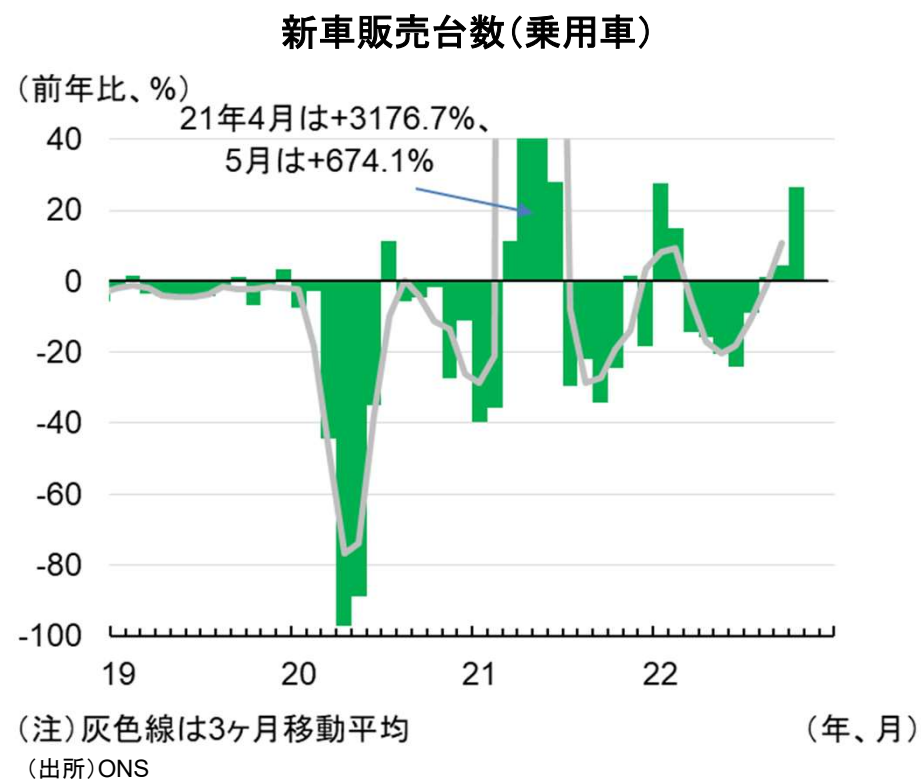
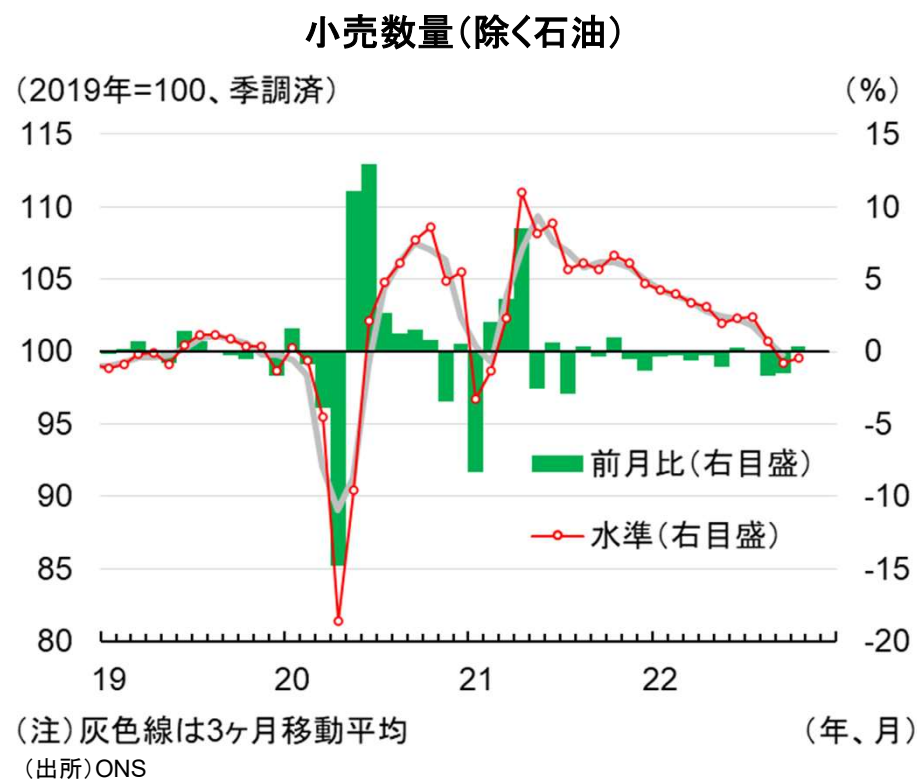


サービス業生産



英国景気概況③ 消費は悪化

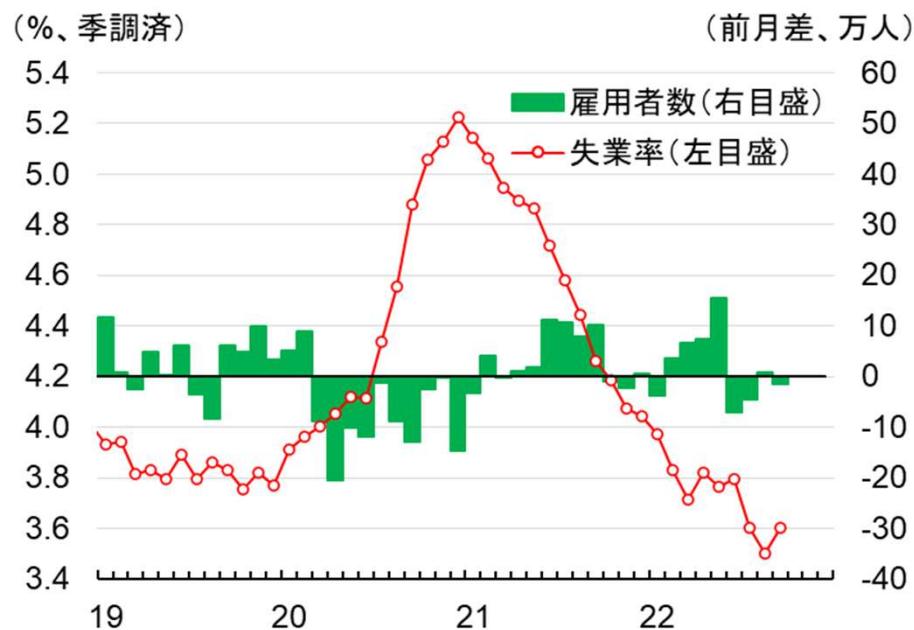
英国の10月の小売数量(除く石油)は前月比+0.4%と3ヶ月ぶりに増加したが、均した動きは下向き。一方で、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+26.4%(13.4万台)と2ヶ月連続で増勢が加速し、均した動きもプラスに復するなど、調整が一服した。



英国景気概況④ 雇用は改善が足踏み

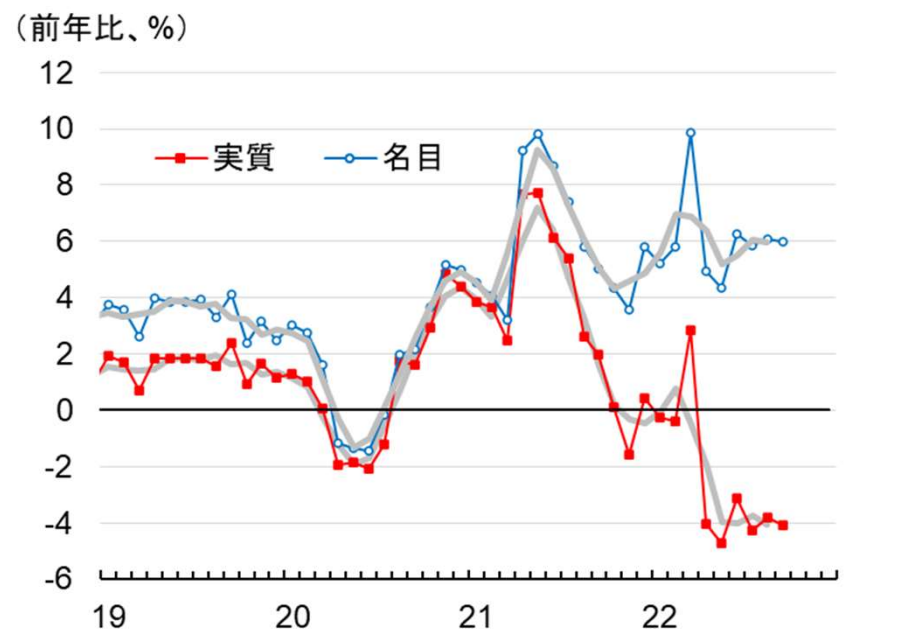
英国の9月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)では、失業率が3.6%と再び上昇、雇用者数も前月比1.5万人減と再び減少するなど、雇用は改善が足踏み。均した賃金の動きは名目ベースだと前年比6%前後のプラス幅が定着も、消費者物価で実質化した実質ベースだと同▲4%近くの減少幅が続く。

雇用統計



(注) 3ヶ月間の平均値
(出所) ONS

平均賃金(週給)

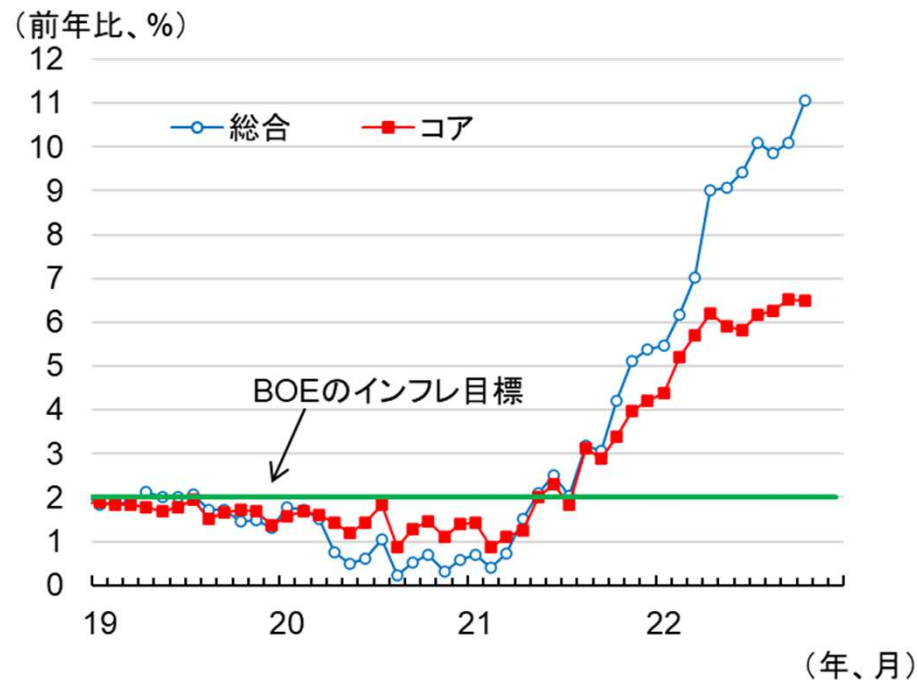


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ONS

英国景気概況⑤ 物価は高インフレが続く

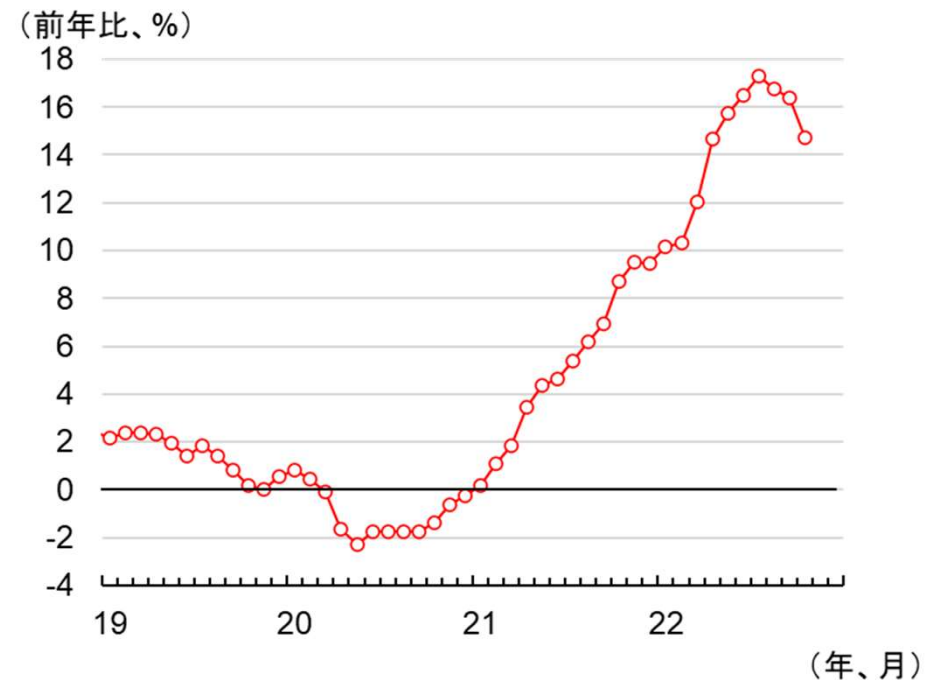
英国の10月の消費者物価は総合ベースで前年比+11.1%と上昇がさらに加速し、高インフレが続く。とはいえ、同月の生産者物価は同+14.7%と3ヶ月連続で伸び率が低下していることから、インフレのピークは近いと考えられる。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

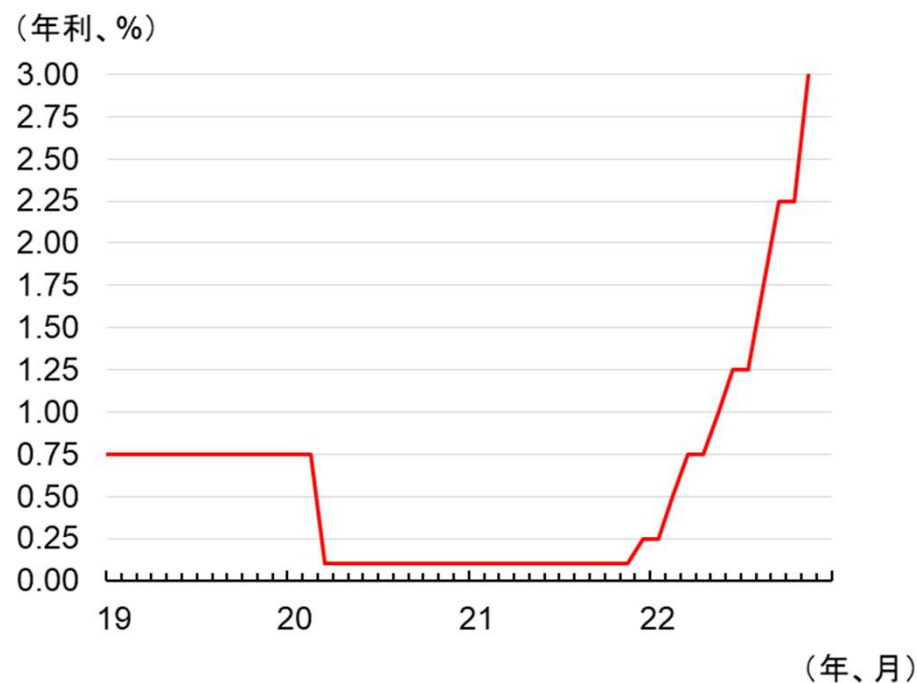


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは12月委員会で追加利上げへ

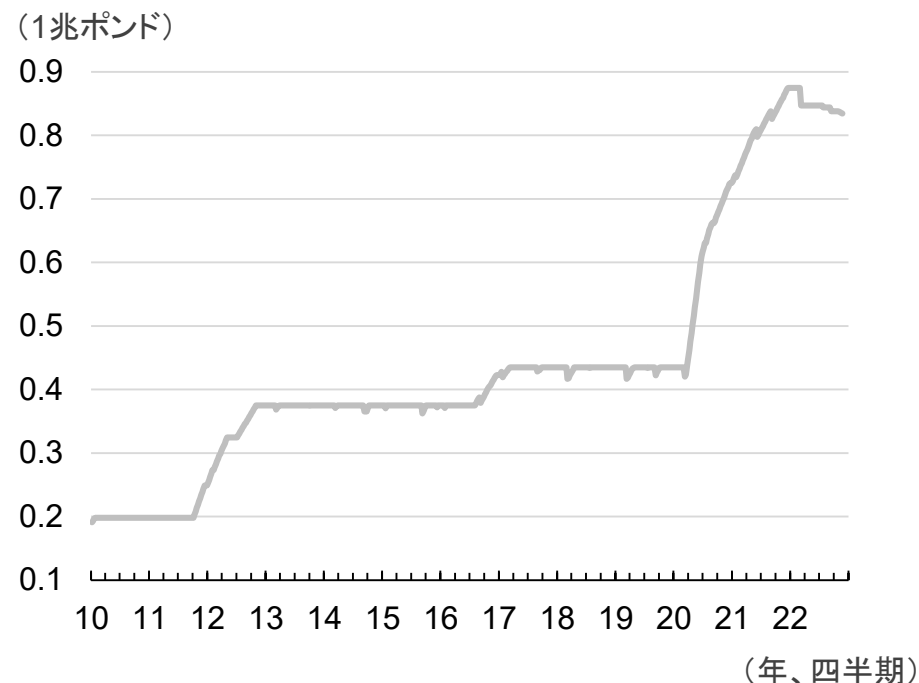
イングランド銀行(BOE)は12月15日に年内最後の金融政策委員会を開催予定しており、0.5%以上の追加利上げが実施される見込み。一方でBOEは11月1日から保有国債の市中売却を開始しており、国債の保有高は徐々に減少している。年明け最初の委員会は2月2日を予定。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

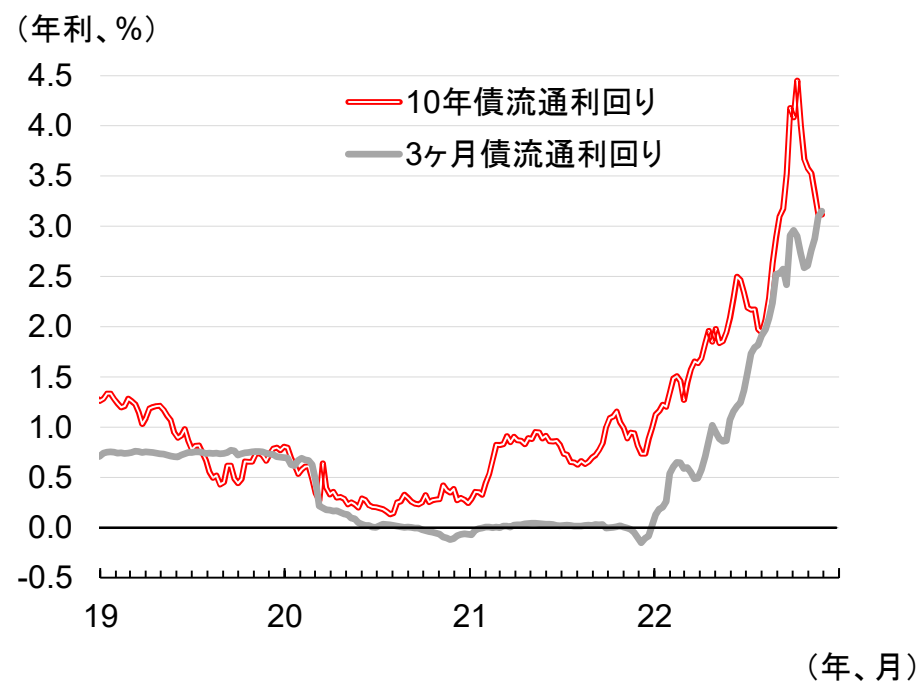


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は低下、株価は上昇

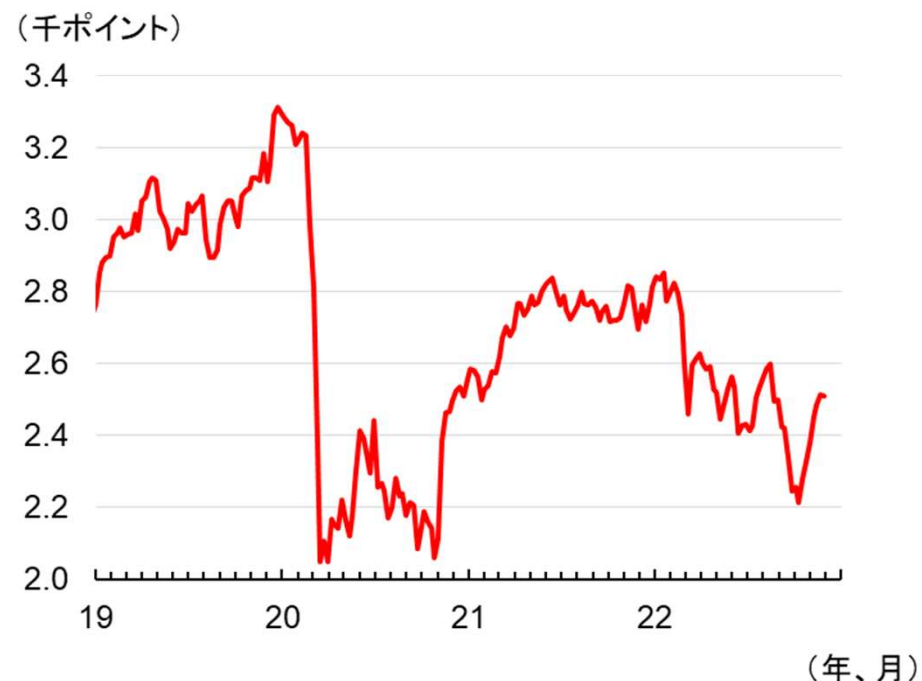
英国の11月の長期金利は低下した。米国発の長期金利低下の動きに加えて、スナク新首相が掲げる財政再建への期待の高まりから長期金利は低下した。一方で、11月の株価は上昇した。資源株や金融株を中心に幅広い銘柄が買い戻された。

金利



(出所)BOE

株価(FT30指数)



(出所)BOE

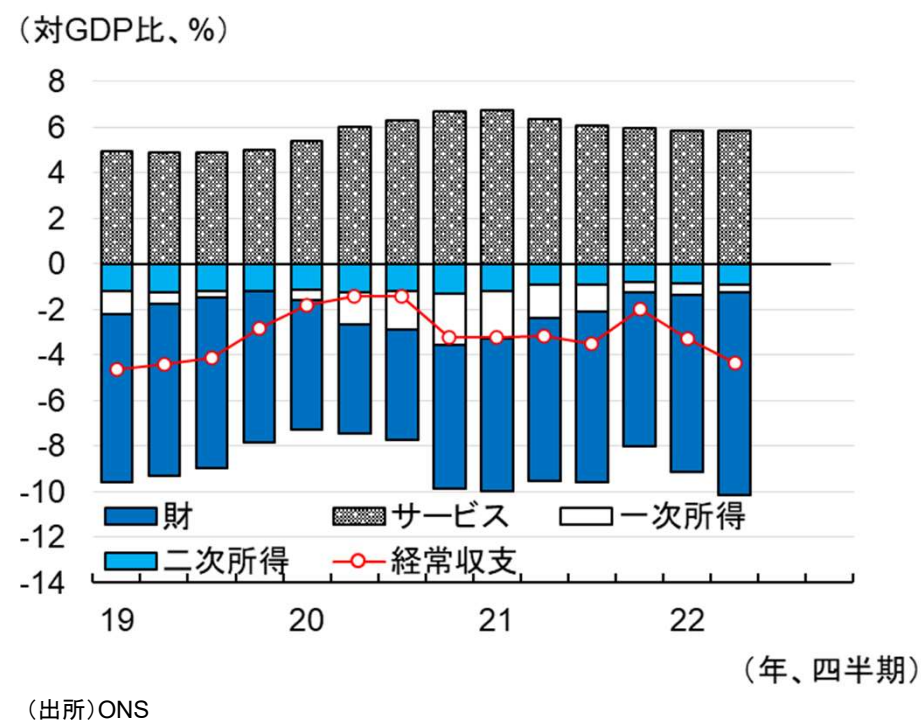
英国景気概況⑧ ポンドは対ドルで上昇、対円で下落

11月のポンド相場は対ドルで上昇、対円で下落。10月25日に就任したスナク新首相が健全財政路線を敷くことへの期待から、ポンド高が進んだ。対円では、これまでの円安の反動から円が買い戻され、ポンド安となった。国際収支は経常収支の赤字が膨らんでおり、実需面からのポンド買い圧力は弱まっている。

ポンド相場



国際収支



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください